

私の父と母

私の母は、同和地区に生まれた父に
出会い、恋をして結婚しました。この人
と結婚したいという純粋な気持ちで結婚
を決めたのですが、祖母や親せきから
「そんな地区の人と結婚したらいかん。」
と反対されたそうです。母は、



「みんな同じ人間やろう。そんなこと言うあなたたちの方
がおかしいよ。」

と、反対を押し切って結婚したそうです。

父と母は、4人の子どもに恵まれ、私は、第一子として
生まれました。小学生になり、いろいろなことがわかるよ
うになったある日、母から大事な話があると言われました。

母は、父が同和地区に生まれた人で、世の中には部落差
別があることを教えてくれました。でも、何もみんなと変
わらないこと、差別をしている人がおかしいこと、もし差
別されても堂々と生きていけばいいということを教えてく
れました。そんな母に育てられた私は、一度も同和地区に
生まれたことを恥じたことはなく、堂々と友だちや夫やそ

の家族にも話してきました。話した相手からは、
「まだそんなことで差別する人いるの？」
と言われたこともありますし、

「親からあそこのムラの人とは関わったらダメよ。危ない
人がいるらしいよと言われていた。」

と話してくれた人もいます。その時、私は

「人はどこの人だからいい人・悪い人とかはないと思う。

その人と関わってみないとどんな人なのかわからないで
しょ。それに、同和地区に生まれたからおかしい人とい
うのは、偏見でしかないと思う。」

と、話してきました。

私の祖母

父のことを差別的に見ていた祖母も、私たち4人の孫を
とてもかわいがってくれました。私もそんな祖母にたくさ
ん甘えさせてもらいました。ある日、妹の行動が気に入ら
なかった祖母は、妹に対してひどい言葉を言いました。部
落差別につながる言葉でした。

母はひどい差別用語を発した祖母に激怒して、

「そんなひどいことを孫に言う人に、うちの子は関わらせ
ん。うちから出て行って。」

私の今

私は、両親・祖父母・今まで出
会った先生たちからたくさん愛情をも
らい、大切に育てられました。

高校生になり進路を決めるとき、人と
関わる仕事がしたい！と強く思うよう
になり、幼児教育の道へ進みました。そして、市内の幼稚
園に就職し、毎日園児と楽しく過ごしています。

私は、自分が大切に育てられたように、子ども、その

子の家族、そして職員、地域の方々など、一人ひとりを
大切にすることをモットーとしてお仕事をさせてもらっ
ています。



差別がない世の中にするには、一人ひとりを大事に思い、
自分がされたら嫌なことはしないことが大切です。この気
持ちさえあれば、どこで生まれても、どんな人でも、差別
はなくなると思います。

しかし、今もなお差別で苦しんでいる人はいます。幼児
教育の中で、差別する子、差別される子、見て見ぬふりを
する子をなくし、「おかしいことをおかしいと言える子」
を育てることを通して、どの子ども堂々と自分を生きられる
世の中にしていきたいと願っています。

差別を憎み、人を憎まず

父と妹は、祖母から差別を受けましたが、祖母に対し
て怒ることもなく、優しく接していました。父に、

「おばあちゃんのこと嫌いにならんと?」

と聞いたことがあります、

「お前たちのたった一人のおばあちゃんやろうもん。嫌い
とかないよ。」

と言っていたことを覚えてい
ます。

差別を受けたからこそ、人
に優しくできる父。そんな強
くて優しい父を今でも尊敬し
ています。

